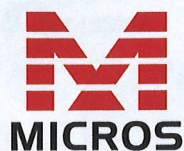


システム
インテグレーター業界
通信・ネットワーク/
システムインテグレーター



採用HP

株式会社マイクロソフトウェア



- 日本と世界の社会インフラに貢献するエンジニア集団
- ITコンサルティング 最上流工程から全工程に精通
- 注目の光る技術「ブロックチェーン・AI・ロボット」
- 生成AIを活用した開発に若手から携われる環境
- 高度情報化社会を支えるサイバーセキュリティ人材在籍!

Data

設立: 1983年2月23日 / 資本金: 1億円 / 売上高: 【単独】19億4,000万円(2025年7月期) /
代表者: 代表取締役 田中 聡 / 従業員数: 【単独】126名(2026年4月現在) / 卒業生在籍数: 1名 /
住所: 〒213-0012 神奈川県川崎市高津区坂戸3-2-1 KSP西棟6F /
電話: 044-813-7211 / E-mail: saiyo_info@micros.co.jp

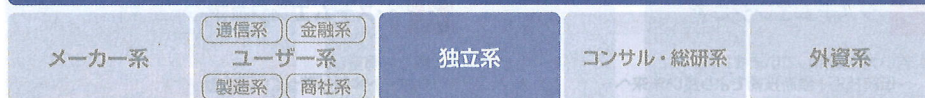
専攻と職種 ●：卒業生在籍 ★：卒業生在籍以外の採用対象	専攻	学部										大学院										心身障害科
		工学部					情報フロンティア学部					化学部					工学研究科					
		機械工学科	航空宇宙工学科	ロボティクス工学科	電気電子工学科	情報工学科	環境土木工学科	メディア情報学科	経営情報学科	心理科学科	環境・応用化学科	生命・応用バイオ学科	建築学	環境土木工学専攻	情報工学専攻	電気電子工学専攻	システム設計工学専攻	バイオ・化学専攻	建築学専攻	高情報ものづくり専攻	ロボティクス・メカトロニクス専攻	
職種																						
AIシステムエンジニア		★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★

全ての在籍者を●で表示できない場合は○が1つは

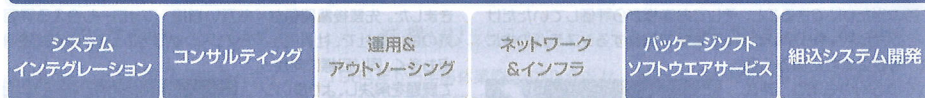
全ての在籍者を●で表示できていない場合があります

図で見る企業DATA

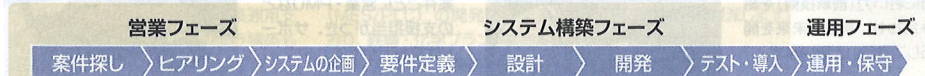
業界のポジショニング



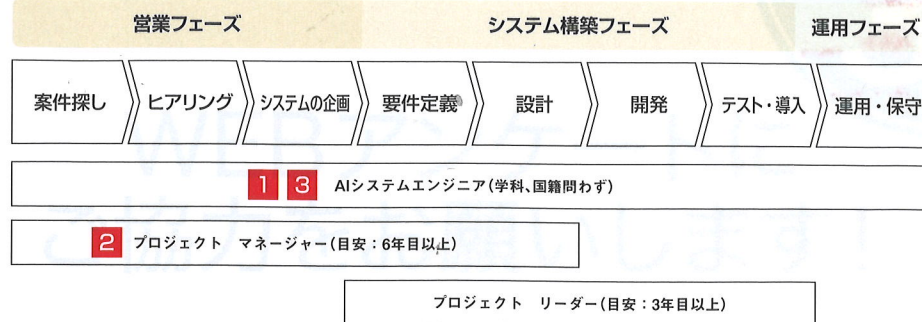
主要業態



フローチャートで見る業務範囲



業務フローと職種



1 AIシステムエンジニア

■ 「モノづくり」の醍醐味を味わいませんか?

■ やりがい
システムを単に構築するだけではなく、お客様の求めている「ITコンサルティングからシステム設計・開発・導入・運用まで」の「トータルなシステムソリューションサービス」を、生成AIなど先端技術を駆使して提供しています。新たな価値を創造し、実現したいと思っている方、最新技術でシステム開発をしたいと思っている方、人の役に立つ・人の命を守る仕事など、社会に貢献したいと思っている方、それがまさに、マイクロソフトウェアが携わっている世界です。



2 プロジェクトマネージャー

■ 卒業生よりメッセージ

現在、プロジェクトマネージャーとして、海外の高速道路交通システム開発に従事し、プロジェクトを推進しています。

後輩学生の皆さんへ
未知への挑戦が自身を成長させました。好きなこと、気になること、挑戦してみたいことに、そっと踏み出してみてください。皆さんのその一歩が未来を作ります。応援しています!



K・K
2004年入社
旧: 経営工学専攻
(大島研究室)

3 AIシステムエンジニア

■ 最先端のAIの力で未来を変える次世代の「AIシステムエンジニア」を目指そう!!

発展のスピードが速いIT業界では、次々に新たな技術が誕生し、実用化されています。マイクロソフトウェアが考える「AIシステムエンジニア」は、AI技術を活用して、ITシステムやソフトウェアを設計・開発する専門家です。AI技術の進歩により、システムエンジニアの仕事は大きく変化してきています。例えば、プログラミング、単体テストといった工程をAI技術を活用する事で、仕事の効率化が図られ、上流工程であるITコンサルティングといった最上流工程に関わる時間に費やすことができるようになります。ただし、システムエンジニアとして、AIに全て任せるとはならず、AIが正しく判断して、正しく実装したのか、を判断できる技術力が必要です。マイクロソフトウェアでは、最新技術の研究・開発を目的に、専任スタッフによって組織された「ブロックチェーン・AI研究所」を

併設しています。この研究所の技術は各事業部と連携しており、常に最先端の技術に携わることができます。2025年には、米国で開催されたCES(世界最大のテクノロジー展示会)に出展し、当研究所が進めている研究内容を発表。日本国内で特許も取得し、世界から注目を集めました。さらに、社内では自社開発のAIチャットサイト「Mic Bot」を運用しており、最新のAI技術を活用した開発が推進されています。

